

## 令和2年度 多治見市民病院指定管理者評価委員会議事録

- 【日時】** 令和2年7月27日(月) 15:00～
- 【場所】** 多治見市役所 駅北庁舎 4階第3会議室
- 【出席者】** 中村 俊之 委員長(東濃保健所長)  
尾関 恵一 委員(多治見市監査委員)  
富田 隆一 委員(多治見市15区区長)  
鈴木 亜紀子 委員(市民代表)
- (事務局)  
今井裕一(市民病院院長)、田口悟(市民病院総務部部長)、  
澤田誠代(市民健康部長)、高木裕美(保健センター所長(進行))、  
保健センター(大畑幸二総括主査、柴田恭兵主事)

### 【次第】

- 委員紹介、事務局紹介
- 市民健康部長あいさつ
- 委員長により開会
- 傍聴人有無の確認  
傍聴人無し
- 会議の成立確認  
全員出席により成立
- 事務局から評価シートの見方、評価の定義等の説明
- 指定管理者、指定期間、業務の範囲の説明

### 【議事概要】

(事務局)

～資料1について説明～

#### 1 診療について

(委員)

基本的医療機能について毎年目標値を上げている。誰が決めているか。

(事務局)

市民病院が毎年事業計画を立てており、それに基づき設定している。

(委員)

目標値について基準はあるか。

(事務局)

看護師については現在、患者10人に対し看護師が1人、7人に対し1人と  
いった国の基準がある。現在は10:1で行っており基準を割らないようにし  
ている。目標は大きく設定しているが基準は満たしている。周りの病院は7:  
1で行っているがそこまでの人数は必要ではなく、国としては10:1にする  
流れである。

(委員)

東濃の看護学校が閉鎖になることによる影響はあるか。

(事務局)

看護師には様々な経歴を踏んでいる人もいれば大学の看護学部を出ている人もいるが、途中から看護師を目指す人もいるため受け皿がなくなることは心配している。市民病院は離職者が少なく定着している。

(委員)

実際には看護師は足りているのか。

(事務局)

看護師は若干足りていない。365 日稼働しており、看護基準もあるため看護師の休暇などをやりくりしないといけない状況。

(委員長)

基本的医療機能については○とします。

(委員)

外来診療について増加していると説明されたが減少している診療科もあるが。

(委員長)

延べ患者は増えているが初診が減っている。

(事務局)

コロナウイルスの影響で3月については減っている。

(委員長)

紹介率が低く、初診の減少に影響があるのか。

(事務局)

医師会に市民病院の医師を紹介している。ようやく紹介率が毎年数%ずつ上がってきている。市民病院では診療できない患者は県病院に紹介する流れを作っている最中。

(委員長)

安全管理・医療倫理についてはコロナ対策を万全にしてもらっている。

(事務局)

保健所や県から依頼を受け病室や帰国者接触者外来、妊婦のPCR 検査の協力をしている。

(委員長)

各項目の評価について基本的医療機能、外来診療、入院診療、安全管理・医療倫理は○とする。

(事務局)

【評価の確認】基本的医療機能○、外来診療○、入院診療○、安全管理・医療倫理○

## 2 政策的医療について

(委員)

救急医療について、件数は増えているが患者数が減っているのはどうしてか。

(事務局)

件数は救急搬送の件数、患者数は診療時間外での受診人数であり、必ずしも同時に増加する訳ではない。時間外はインフルエンザが流行するかどうかで変わってくる。

(委員長)

小児科は減っているが。

(事務局)

3月の外来患者、入院患者がコロナでほとんどなく、感染症も流行してないためほとんど0の状況。

(委員)

リハビリテーション医療は引き続き充実させてほしい。

(事務局)

県病院は入院期間が決まっており、転院の手続きをすぐ決めるような連携ができています。

(委員長)

超音波乳がん診断装置は乳がん検診では使っていないか。

(事務局)

現在は併せて使っている。

(委員)

トリアージの訓練は行っているか。

(事務局)

訓練は行っている。

(委員)

屋上のヘリポートは使えるのか。

(事務局)

使える。

(事務局)

【評価の確認】救急医療○、小児医療○、リハビリテーション医療○、保健衛生事業○、災害時医療○

### 3 地域医療連携等について

(委員長) 105

紹介率や逆紹介率について目標の40%には届いていないが昨年から3%ほど増えている。

(委員)

町医者は近くにある県病院を紹介していると聞く。

(事務局)

開業医、患者は便利さを求めている。MRIやCTだけ読影して帰っていただ

くなどしている。ネットなどで連携をしている開業医もある。

(委員長)

地域連携パスは増えているか。

(事務局)

連携パスは使うことはほとんどない。開業医からの相談を受けるにはいいドクターが必要、そのために午後から愛知医大から教授や准教授を専門外来で呼んでいる。

(委員長)

各項目の評価について地域医療機関の連携等△、市民参加の促進○、市の施策協力○、介護保険事業等高齢福祉の協力○、施設の維持管理○、利用料金の収受○とする。

(事務局)

【評価の確認】地域医療機関との連携等△、市民参加の促進○、市の施策協力○、介護保険事業等高齢福祉の協力○、施設の維持管理○、利用料金の収受等○

(委員長)

そのほかに質問・意見はないか。

(委員)

特になし

(委員長)

これをもって閉会とする。(16:25 終了)